

# スカウトみやぎ



2021/3.1  
Nº. 54



宮城県に関わるチーフを紹介します  
いつの、ジャンボリー、キャンポリーか分かりますか？



このたび宮城県連盟の県連盟コミッショナーに就任した、白石第1団の中橋です。スカウト活動をしていて楽しいことは、多くの人と出会うことができることにつきます。ICT部長として奉仕させて頂いた第23回世界スカウトジャンボリーでは、3万3千人以上の世界中の仲間たちと出会うことができました。この大会では様々な国籍の220名の部員とともに楽しく奉仕させて頂きました。このような体験をたくさんのスカウトに経験してほしいと思っております。

次に新コミッショナーとしての抱負ですが団指導者・隊指導者の皆さんへの支援については、スカウティングの基本を大切にしてこられた千葉前コミッショナーの基本路線を継承しつつ、さらに充実させていく所存です。またSDGsをはじめとする社会課題解決に世界中の企業が取り組むなど社会の状況が大きく変わる中で、ボーイスカウト運動も新しい価値を社会と共に創して広くアピールしてゆくことが必要だと思っており、県連盟としても県内の自治体や企業と、従来とは異なるアプローチで連携してゆこうと考えております。

皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## あの時、いま伝えたいこと

忘れてはいけない2011年3月11日  
今だから残しておきたい、伝えたいことを寄稿していただきました

### 震災の時のスカウト活動とコロナ禍の今

石巻第2団 BS隊長 伊東光枝



石巻第2団のボーイ隊隊長をしております伊東と申します。私達は東日本大震災から10年という節目を迎えようとしております。

石巻第2団では、団倉庫が流され、テントも装備もなく、家が流れ波から逃げたスカウトや避難所生活のスカウトがいる状況でした。

しかし、後に保護者に話を聞くと、そのような非日常の中で、スカウト達は驚くほど冷静だったようです。電気が無くとも、お風呂に入れずとも大丈夫といった達観した精神力は、ボーイスカウトで培ったもの、という認識が保護者とスカウト達にあったのです。再開した初めての野営で、キャンプ出来て良かったと呟いたスカウトの言葉が忘れられません。

今、この制限が続くコロナ禍に於いても、スカウト達の情熱を消さないよう、活動していく所存です。

### 防災に生きるスカウト活動

石巻第6団CS副長 渥美眞佐男

宮城県で教員をしている私にとって、東日本大震災の教訓を子どもたちに伝えていくことは使命です。ただし、それは暗いトーンではなく、自然ときちんと向き合った前向きなものでなければならぬと感じており、スカウト経験が大いに生きています。

被災時、多くの避難所等で火起こし、ロープワーク等のアウトドアスキルが命を救いました。そして、数多くのスカウトが奉仕を尽くしました。その技と心を少しでも多くの子どもに学んでほしいところですし、東日本大震災から10年の節目を迎えた今は、スカウト活動の魅力を防災の面から再認識してもらえるよい機会と感じます。宮城らしいスカウト活動を広めていきたいですね。



ブラジル サンパウロよりたくさんの支援をいただきました

### 後輩に笑われないように 名取第1団CS隊長 布田宗久

2011年、長男をカブ隊に入れたことが、私がボーイスカウトに携わることになったきっかけでした。

9月に行われた名取第1団の入隊式の時、私の中学時代の部活の一つ下の後輩が、当時名取第1団でベンチャーチー隊の隊長をしていたこと、そして残念ながら震災で亡くなっていたことを初めて知りました。

彼は学生時代から朗らかで、学校を卒業して何年・何十年たっても気さくに声をかけてくれる、とても気が良い人物でした。彼は子供の頃からボーイスカウトを続けており、ベンチャースカウトの指導者として立派に活動をしていたと聞いています。

私が隊長就任の打診を受けたのは今から2年前、その時頭に浮かんだのは彼のことでした。隊長を引き受けるのであれば、天国の後輩に笑われないように、しっかりやろう、と。

天国のあいつに伝えたい。

「俺はちゃんとやってるかな？ 一緒に指導者をやりたかったよ。俺の先輩としていろいろ教えて欲しかったよ。これからも、天国からスカウトと指導者たちを見守っていてください。」

# あの時、いま伝えたいこと

## 世界中からの思いと支援に感謝

石巻第6回副団委員長 菅野五郎

教師をされていた阿部礼子様（石巻第6回副団委員長 阿部和子さんの妹さん）と交流のあった日系移民2世・3世のみなさんにもそのニュースが届きました。「先生の実家が津波で大被害を受けた」「お世話になった先生を支援しよう」

「生まれ育った町を応援しよう」との呼びかけがはじまり、多くの協力が集まりました。

その意向を受けた礼子様（現在千葉県我孫子市在住）により支援物資が石巻に届けられ、行政区長・民生委員の了解のもと、地域のハワイアン・ダンスグループ、特別養護老人ホーム「センダンの杜」の皆さんといっしょに団地の慰問・支援をいただき、石巻第6回にも義援金の寄付を頂戴致しました。

世界中からの思いと支援に感謝するとともに、「次は私たちが役に立つ」いつでも奉仕応援出来るスカウト達を育てて行きたいと思います。



## 今、自分にできることは何か！ 泉第1回団委員長 菊地大喜

今年で東日本大震災から10年目の節目を迎えます。

当時、私はビーバー隊長をしており、活動を再開できたのはその年の6月でした。

被災された方々が懸命に暮らしを再建する中、活動などしてよいものかと迷いもありましたが「今、自分にできることは何か！」そう考えた時、今の状況をスカウトに語り、気持ちを一つに「大きな輪」をつくることでした。

小さなスカウトでも笑顔や思いやり心、そして節約は元気よく約束してくれました。勿論、スカウト年代に於いては自ら支援活動等へ望む姿も有望視されますが、大切なのは何をするかではなく、其々がその環境の中で何ができるのか！を考えて行動に移すことだと思います。人として、そしてスカウトとして、これからも。弥栄

## あのときの経験は無かったらしいのに！ 泉第2回BS副長 田端花々子（当時 ベンチャースカウト）

震災の翌日から制服を着てベンチャースカウトの仲間たちとボランティア活動に行きました。避難所の運営や配給全国から来た衣類などの救援物資の仕分けをしていた時、避難していたおばあさんから「私はもう先が長くないけど、これから東北の未来を作るのは若いあなた達。頑張ってね。」と声をかけられた。私は「頑張ります」とありきたりな返事しか出来なかった。毎年3月11日、かけられた言葉を思い出し「あのおばあさんは元気かな？」「今の被災地に私が出来ることはなんだろう」と。

その年、私はスウェーデンで行われた世界ジャンボリーの海外派遣に参加しました。

地震で被災したスカウトや津波で制服などを失ったスカウトとともに、事前訓練が出来ないまま参加したジャンボリーでしたが、全国の仲間達からの応援、多くの指導者の協力があって、予定通り参加することができました。

現地で海外スカウトと交流する中「あなたは日本のスカウト？地震は大丈夫だった？」と声をかけられ、その思いに感謝するとともに「世界中の仲間達が知るほどの震災だったのだ」と気づかされました。



「私たちにはたくさんの仲間が日本だけでなく世界中にもいるんだ」と。

3月11日が近づき、テレビや新聞で当時のことが報道される度、「今不自由のない生活が出来ていることは当たり前ではないのだ」「あの震災を忘れない」と。

とても辛く不安な毎日を過ごした10年前。あの時の経験は無かつたらいいのに。でも、あの時の経験があったから、今の私たちがいる。

そのことを忘れずに日々に感謝して生きていきたい。



## 今回のスカウトみやぎの表紙はネッカチーフのマークを並べました。いくつ分かりましたか？

全て、宮城県連盟に関する、日本ジャンボリーや北海道東北キャンボリー、県キャンボリーの記念のチーフです。

**もうすぐ日本連盟創立100周年。日本ボーイスカウトの歴史、宮城県連盟の歴史も調べるのも楽しいですよね！**

- |                              |                        |             |
|------------------------------|------------------------|-------------|
| ①1999年 宮城県連盟50周年記念チーフ        | ⑨1974年 第6回日本ジャンボリー     | (北海道千歳原)    |
| ②1993年 第10回東北キャンボリー          | ⑩1986年 第 9回日本ジャンボリー    | (宮城県白石)     |
| (宮城県宮城蔵王)                    | ⑪1998年 第12回日本ジャンボリー    | (秋田県森吉山麓高原) |
| ③2016年 平成28年度ボーイスカウト日本連盟全国大会 | ⑫2002年 第13回日本ジャンボリー    | (大阪府舞州)     |
| (宮城県仙台市)                     | ⑬1986年 第 9回日本ジャンボリー    | (宮城県白石)     |
| ④1982年 第 8回日本ジャンボリー          | ⑭2005年 第 2回北海道東北キャンボリー | (北海道帯広)     |
| (宮城県南蔵王)                     | ⑮1970年 第 5回日本ジャンボリー    | (静岡県朝霧高原)   |
| ⑤1994年 第11回日本ジャンボリー          | ⑯2012年 第 4回北海道東北キャンボリー | (山形県蔵王坊平高原) |
| (大分県久住高原)                    | ⑰2006年 第14回日本ジャンボリー    | (石川県珠洲市)    |
| ⑥1977年 第 7回県キャンボリー           |                        |             |
| (宮城県栗駒)                      |                        |             |
| ⑦2001年 第1回北海道東北キャンボリー        |                        |             |
| (岩手県岩手山麓高原)                  |                        |             |
| ⑧1975年 第5回東北カブラー             |                        |             |
| (福島県郡山)                      |                        |             |

真ん中のチーフとワッペンは、これまでの日本スカウトジャンボリー（日本ジャンボリー）の記章・マークです。みなさん調べてみて下さいね！このチーフは、スカウトOB 柿沼富雄氏より貴重な資料をお借りし制作しました。ありがとうございました。

# 今、コロナ禍の中で

## 新しい活動のあり方

塩釜第1回BS隊 隊長 三束 彰

コロナ禍による活動制限が始まってから1年が経とうとしています。

振り返ると、指導者である私も6月までの活動自粛に始まり、ボーイ

という状況下、戸惑い悩む試行錯誤の毎日でした。しかしそれ以上にスカウトたちにとっては、ボイスカウト活動はもちろんのこと、学校生活や放課後の過ごし方など今までとは違う生活の中で、私以上に大きな不安やストレスを感じながらの日々であったと思います。

そんな中、日本連盟のHPに掲載されていた「#おうちスカウティング」には、コロナ禍でもスカウトと共有できる活動のアイディアが沢山掲載されており、私自身今後の活動に改めて希望を見出す大きなきっかけとなりました。

自粛要請期間中は、スカウトへ自宅で進級科目に取り組むワークを郵送しました。それぞれが試行錯誤をしながらワークに取り組み、6月の活動再開後の集会ではハイキングを中心とした野外活動でその内容を実践していきました。

またこの「新しい活動のあり方」は、今まで以上に保護者の皆さんとの連携と協力があってこそ実践ができます。



スカウト自身も、コロナ禍を経てさらに家族の絆や協力を体感することが多かったのではないかと思っています。次なるステップとして今後「ちかいいとおきて」を身近な形で活動と一体化できるよう進めていきたいと思います。

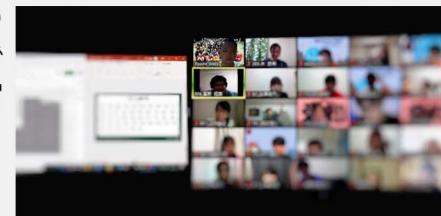
## 先ずは一步踏み出してみませんか

仙台第1回VS隊 隊長 和田悠佑

コロナが騒がれてから約1年が経ち、世間ではデジタルトランスフォーメーションが飛躍的に進みました。

私自身、何とかくらいついていますが、スカウト達（デジタル

ネイティブ世代）とのギャップに強く悩まされています。皆さんの中にも、諦めを感じた方がいらっしゃるのではないかでしょうか。でも運営側が諦めてはダメです。10年前、大災害の時も苛まれましたがこれは1つのきっかけなのではと。私はスカウト達に何を提供できるのかと考え、日本連盟のオンライン行事の運営に飛び込みそのノウハウを会得しました。



近くコロナは収まるでしょうが、新しい生活様式はこのまま続く気がします。苦手意識のある皆様も**主役であるスカウト達の為に**、先ずは一步踏み出してみませんか。

## パソコン・スマフォがあればOK！ YOUTUBEでロープワークスキルup

仙台第37回BS隊 副長 吉田幸弘



コロナ禍の中WEB集会という方法も出てきました。集会で技能を学ぶ機会が減り、それぞれ自己研鑽することが多くなり「どのように技能を習得すればよいのだろう」と悩むスカウトがたくさん居るのでは。タイトルを見て、本当？と思うでしょうが試しに、パソコン・スマホでYOUTUBEにアクセス、覚えた結びを検索して何回もその動画を見て真似してみてください。いつの間にかロープ技能を覚えます。

37団スカウトはYOUTUBEでもやい結びの”瞬速もやい”という動画を見て、3秒で結ぶ技能を習得しました。また、もやい結びの結び方6種類も習得しました。

さまざまなロープワークをYOUTUBEサイトで学び、そのスキルを指導者に披露してください。

「俺にも教えろ」「もう一回教えて」と言われるかも。その時君は「最高」という気持ちになります。そして最高という気持ちを味わえたら、もっとボイスカウトを楽しもうという気持ちになるはずです。その日に備える為、自己研鑽に励んでくださいね。

瞬速もやい結び動画のQRコード

瞬間もやい結びのYOUTUBEアドレス <https://www.youtube.com/watch?v=ZsXEkHHZJlQ>



コロナ禍の中、食事についての感染がニュースでも取り上げられている。感染拡大の恐れが調理活動にあるためである。

キャンプでは出来るだけレトルト食品を使うことで回避していましたが、2級章進級科目である、野外料理（野菜・肉・魚・玉子を使った材料の調理）を行う機会が減ってしまいました。

例年行われているクリスマス会でも料理を作っていましたが、調理中の感染や取り分けでの感染を考え、各自お弁当を持ってくる方法をとってみました。スカウトは各自クリスマスを感じさせる工夫をし、色々なお弁当を作ってくれました。（スープ付きのスカウトもいました。）

クリスマス用のお弁当を作ることで、日頃保護者の方々のお弁当を作る苦労が少しは理解してくれたのではないかと思います。

## コロナ禍での調理活動

名取第1回BS隊 隊長 平井 充



# がんばれ！上進・進級！一歩！二歩！進歩！

## 初めは出来るものから

僕は、毎年完修者が少ないのでスーパークーパーに挑戦しようと思いました。  
**泉第1回BS隊 遠藤蒼介** チャレンジ章の多くは、活動の中で取得できます。「音楽家」では組のみんなと協力し  
(2019年度完修スカウト) ました。

初めは出来るものから進めていったのですが、段々と難しいものが残っていきました。冬の隊活動で「スキーチャンピオン」を取得するチャンスを逃してしまいました。もう無理だと思って諦めていたのですが、活動の休みの日に隊長が「スキーチャンピオン」の連絡をくれました。習得しなければいけない項目の中の「直滑降」がとても怖くてできなかったのですが、前のスカウトがきれいに滑っているのを見て自信をもってやってみると僕にも滑る事が出来ました。

カブ隊のチャレンジ賞で沢山の事にチャレンジしたお陰で、今でも役立っている事がたくさんあります。パソコンを覚えたり、テントを張ったり、「気象学者」を取得したこと、ニュースを見た際、天気予報まで見るようになりました。今年度ボーイ隊に上進したので世界ジャンボリーに向けて頑張っていきたいと思います。



## 少しずつ進めて 完修！大きな達成感を！

**泉第1回BS隊 三枝あかり (2019年度完修スカウト)**

私がスーパークーパーに挑戦したきっかけは、チャレンジ章をうさぎの時から少しずつ進めていき、くまの時にあと少しになったので、全部完修しようと思いました。

頑張った事は、アイススケート選手のクロスカットです。滑りながら足をクロスさせる事がとても難しく大変でしたが、何回もスケート場に行って練習し、出来るようになりました。その他にも救急博士で怪我の手当の仕方を調べて覚えた知識のおかげで生活の中で使うことが出来ました。そして、その事を周りの人に教えてあげる事も出来ました。取れて嬉しかったチャレンジ章は乗り物博士です。乗り物では飛行機について調べて、飛行機の仕組みや、種類などを沢山調べて大変だったので、取れて嬉しかったです。

うさぎの時から少しずつ3年間色々な所に行ったり、沢山調べたり大変だったけど完修することで、大きな達成感を得ることが出来ました。



是非皆さんにもこの達成感を感じて欲しいのでスーパークーパーを目指して欲しいです。

## 「二人の約束」名取第1回カブ隊 くまスカウト 佐藤颯英・吉田響輝

僕たちはビーバー隊から上進する時に、「どっちもスーパークーパーになろうね！」と約束しました。そしてその約束を果たして、二人で一緒にスーパークーパーになりました!! その僕たちが一番大変だったのは、【国際】のチャレンジです。〈世界の中で十か国を選んで調べる〉という細目で、人口や通貨を調べなくてはなりませんでした。とても大変でした。逆に楽しかったのは、【自転車博士】と【市民】のチャレンジです。なぜかというと二人で一緒に活動したからです。【市民】はNHKへバスや電車を使って行きました。【自転車博士】は岩沼の千年希望の丘をサイクリングしました。

そして僕たちにとって最大の出来事もありました。それは、うさぎの夏キャンプの時にした《大・大・大げんか》です。そのけんかの後、僕たちはおたがいのことをよく知ることができ、あまりけんかをしなくなりました。

《大・大・大げんか》のおかげで、今は《大・大・大・大親友》になりました！またそれがスーパークーパーへの約束へつながりました！！

今度は4月からボーイ隊に上進します。ボーイ隊になったら、また二人で菊スカウト章を目指してがんばっていくことを約束しています！！



## スーパークーパー振り返って

**仙台第1回BS隊 村山 想**

僕が『スーパークーパー』をとったのは、二年前のくまスカウトの時でした。最初は面倒と思っていたけれど、仲間が挑戦している姿を見て自分のやる気と好奇心を刺激され、できることから始めるうち徐々に楽しくなりました。チャレンジ章で印象に残っているものは探検家と国際です。調べていくうちに自分の知らなかったことが沢山あると気が付きました。このコロナ禍で世界中のスカウトが気になり、いつか会ってどうしていたのか語り合いたいです。

また探検家では、活動中に仲間と協力して竹とブルーシートで小屋を作りました。小屋の中で、一緒に食べたおにぎりは格別においしかったです。その仲間と今は、ボーイ隊でテントを張っています。



今振り返ってみるとチャレンジ章を通して、挑戦することで自分の知らなかったことを知る喜びが得られました。好奇心を刺激されて、自ら行動するようになりました。

このことが、今のボーイ隊の活動や日常生活に結び付き、僕を形作るものとなりました。皆さんもぜひスーパークーパーを目指して挑戦してください。



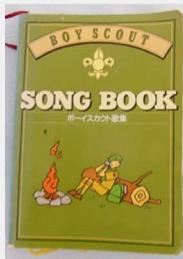
# ボーイスカウトって楽しいよね！

## スカウトソングあるある

仙台第37回BS隊 副長 吉田幸弘

ボーイスカウト歌集を見ると、90%以上”長調(明るい曲)”の曲と言えます。これがスカウトソング”あるある”，即ち、共通点です。

ここで皆さんにクイズです。光の路16頁、永遠のスカウト23頁、われらの旗30頁、これらの楽譜をよく観察してください。共通点が出てきます。ちなみに私は3つ見つけました。皆さんも、これらの楽譜を見て、共通点を探してみてください。



答えですが、・最後の音がファ・シガリ(フラット)の為、半音下がるこれら2つ特徴から”へ長調”と判断します。このへ長調が2つ目の”あるある”です。歌集に載っている曲の約半分が”へ長調”です。3つ目ですが、楽譜を見るとアウフトクト「弱起」第1拍以外から開始する曲」という特徴が挙げられます。実はアウフトクトの曲も多く、連盟歌「花はかおるよ」や「平和の騎士」もアウフトクトの曲です。このアウフトクトが3つ目の”あるある”です。

音楽は歌う、聴く、演奏するの他に、複数の楽譜を見て”共通点”を、見つける力を身に着けることが出来ます。

今回紹介したように楽譜の共通点を探す事で、スカウトソングの特徴を発見するだけでなく、小さな発見を楽しむ人になると思います。その発見を楽しんでください。音楽は楽しむ気持ちから始まります。

## 初めての挑戦！仲間との協力！

白石第1回VS隊 山家碧泉

私がボーイスカウトに入ったのは小学一年生の時。それから約10年間活動しています。その間、部活動を理由に一度退団したのですが、その後再入団しました。理由は明確で、ボーイスカウトってやっぱり楽しいと、飛び入り参加したキャンプで再確認したからです。

初めて挑戦すること、それが成功した時に得られる感動や嬉しさは、他では味わえないものがあります。出来ないと思っていたことができる、自分の力がレベルアップしていると感じる。行動も気持ちも前向きになるのです。

ボーイ隊になると仲間と協力する場面が増えます。みんなで一つのゴールに向か、どうやったらうまくいくか?など話し合いながら活動するのが一番好きで、ボーイスカウトの醍醐味ではないかと思っています。現在、コロナウイルス感染拡大が続いている、以前のように活気ある活動をすることは難しいですが、一刻も早い終息を願っています。



## 楽しく交流できたのは、ボーイスカウトのおかげ

泉第1回VS隊 三枝龍之介

私がボーイスカウトをしてきて1番の思い出は、第24回世界スカウトジャンボリーに参加したことです。2019年の夏にアメリカのウェストバージニア州で行われた世界ジャンボリーには約4万人が集まり、とても活気で溢っていました。そこで私はコミュニケーションの素晴らしさを知りました。私も最初は緊張と不安で外国のスカウトと自由に会話を進められませんでした。しかし、慣れてくると相手の英語も耳に入ってくるようになり、自然と会話が出来るようになりました。そのおかげで大会期間中のいろんなイベントの合間に外国のスカウトとジンガやサッカーなどして遊んだり、チーフやワッペンなどを交換したりして楽しむ事が出来ました。

このように外国人と楽しく交流できたのは昔からやってきたボーイスカウトのおかげだと思います。普段とは違うコミュニティ同士で集まり、それぞれの考え方や文化を知れたのもボーイスカウトのおかげです。ボーイスカウトは一生続けられるので、これからもスカウト精神を忘れずに生活をしていきたいです。



## 組集会、楽しかったあ！！

名取第1回カブ隊 うさぎスカウト 阿部琴羽

今年、楽しかった活動が二つありました。一つ目は、組集会でみんなとカレーを作ったことです。はじめに買い物に行きました。それから二手に分かれて、野菜とお肉を切っていました。にこんでルーを入れて、ルーがとけたら完成です。とてもおいしくできてよかったです。

二つ目は隊集会のクリスマス会です。あきかんランタン作りをしました。がびょうで穴を開けるのがむずかしかったです。次にスタンツをしました。

わたしの組は「さんびきのこぶた」をしました。セリフを言うのがはずかしかったけど、がんばりました。みんな声が大きくてすてきでした。

最後にプレゼントこうかんで自由帳、ボールペン、ねりけしをもらいました。自由帳がほしかったのでうれしかったです。



# ボーイスカウトって楽しいよね！



## ぼくの心に一番のこったのは

名取第1回カブ隊 しかスカウト 布田唯理

今年のカブ隊で楽しかった活動は、けいりゅうのつりでした。

今年は魚をつって、つた魚をインクでぎょたくをとりました。魚をつるための虫が気持ち悪かったけど、すこしづつさわれるようになりました。なかなかつれなかつた時は、ささきインストラクターにイクラのたまごをもらつてつりました。イクラのたまごを使つたら、しばらくしたらまたつれました。みんなもたくさん魚をつってました。みんなもぎょたくをとつていました。ぼくもたくさんつれました。そのあと魚のえらや内ぞうをぬきました。すごい気持ち悪かったけどできました。ぼくの心に一番のこつたのは、魚をつってぎょたくをとることでした。なぜかというと、自分が楽しくつた魚がきねんとして残つたからでした。



## 一番楽しいのはボーイ隊の活動

仙台第1回BS隊 フクロウ班 班長 菅原 樹

僕は、ビーバーからボーイまで約6年間活動を続けています。

この6年間で僕が一番楽しいと感じているのは、主にボーイ隊の活動です。ボーイ隊に入隊して間もない頃は、テントの設営等が分からず、時間も遅れてしまつて怒られたり、いろいろ辛いことがあつたりで、何度か辞めようと思つました。ですが仲間と協力することで活動が楽しくなつきました。

僕がこのボーイ隊で楽しいと思った活動は2つあります。一つ目はオーバーナイトハイクです。仙台第1回はオーバーナイトハイクで、勾当台公園から松島駅まで約30km歩きます。初めてオーバーナイトハイクに参加したときは辛かったです。深夜の街を歩くのは面白く、普段はできないことなので楽しかったです。二つ目は隊キャンプです。隊キャンプは入隊当初は本当に辛かったです。今でも十分辛いですが、入隊当初よりは楽に楽しく出来るようになりました。

隊キャンプは、普段出来ないようなことが沢山出来て、自分の技能スキルなどを上げられるのが魅力だと思います。これらのように、普段出来ないようなことが沢山出来るスカウト活動は素敵だと思います。

これからは、残り約半年を班長として自覚を持ち、スカウトの活動をみんなが楽しめるように工夫していきたいです。



## 楽しかったなあ あんなこと、こんなこと

### 「次の3条の実行を誓います」 泉第2回 OG 大橋佑香

真新しいベージュの制服を身に纏つたその日、不思議な緊張感と高揚感に包まれたことを、よく覚えています。

楽しかった思い出や、印象的な活動などさまざまな経験をしましたが、忘れられない活動となると、ボーイ隊への上進式です。

今になって振り返ると、何が変わるものでもありませんが、そのときはこれまで着用していた紺色の制服ではなく、ベージュの制服を身に纏うこと、一步前に行く先輩たちの仲間入りをすることに、緊張感と高揚感を抱いたのです。

当時の泉2回のボーイ隊上進式は、その後にナイトハイキングがありました。大人の足では大したことがない距離も子供の足ではとても長く感じました。ですが、夜の道をボーイ隊の一員として歩くことに、冒険心のようなものをくすぐられたことも覚えています。たった数時間の出来事ですが、カブスカウトから、ボーイスカウトへの上進は、やはり感じ入るものがありました。私にとって、特別に思い出に残っている活動です。

## 少年時代のボーイスカウト活動を通して 高清水第1回 OB 氏川卓也



カブスカウトの隊長である父を含め、様々なリーダーや、同じ年代のスカウトとともに活動した時間は、学校や家庭では絶対に経験できないものだったと感じています。

地域でのボランティア活動では、全く知らない人から「ありがとう」「ご苦労様」と言われ、人から感謝される喜びを知りました。キャンプでは、人と協力することの大切さはもちろんのこと、メリハリを持つことの大切さ、そして何よりもキャンプ、アウトドア活動の楽しさを実感しました。

ボーイ隊に上進してからは県北地区での交流が増え、新たな友人ができました。スカウトとしての技術を身に付け、キャンポリーやジャンボリーにも参加し、更に多くの学びを得ました。この学びは、教員として働くようになった現在も生きています。ボーイスカウトと教員では立場は違いますが、目の前の子供たちに私が学んだことを少しでも伝えられればと思いながら日々過ごしています。

熱心に指導してくださったリーダーの皆さん、そして一緒に活動したすべてのスカウトの仲間たちに感謝します。

# 楽しかったなあ あんなこと、こんなこと

## はじめてのジャンボリー！ 第7回日本ジャンボリー！

元 仙台第30回ボーイ隊ゴールデンイーグル班 班長 三原健太郎（現・株式会社三原本店取締役社長）

私が初めてジャンボリーに参加したのは、1978年の御殿場でのジャンボリー。当時は新幹線などなく、特急で約4時間かけて上野へ、そこからはバスで移動。しかし、御殿場に着くなり、豪雨のお迎えを受けました。備品などはテントサイトから遠い所に降ろされ、1/3ぐらいの水が溜まっていた木箱を火山灰地の道をヨロヨロと運びました。なんとか、テントは建てることが出来たのですが、避難命令が出たので市内の中学校の体育館に一泊となりました。翌日は天気が回復し、夏の太陽とでっかい富士山が目に入ったことを今でも覚えています。

## 災難続きの第4回日本ジャンボリー岡山県 OB 柿沼富雄

我団からは、川村隊長、私、スカウト9名の参加が決定。参加費を毎月積立し、事前訓練を行い、大会に向けて準備を進めた。出発直前、隊長が怪我をして入院。

出発前日、全員で病院に行き、廊下に1列に並び「隊長、行ってきます」と一同敬礼をしたことを思い出します。隊長からは、柿沼副長1人では面倒見切れないのではということで、急ではあるが団委員の安倍金さんをお願いした。よろしく頼むと。

ジャンボリー会場となる日本原には3万人のスカウトが集結。野営場一面、黄色や赤色のテントで埋まったようすが忘れられない。会場は盆地の影響のため、毎日30度～34度の暑さが続いたが、この年販売された「コカ・コーラ」が喉を潤してくれた。

開会式の途中、私は精神的疲労のため倒れた。後で聞いたのだが胸に手を当てて倒れたとのこと。そういえば胸ポケットにスカウト9人の小遣いが…。

大会期間中、会場に設置されたシャワー。各隊順番に水浴びをしたなあ。姫路城、日本三庭園の一つ後楽園の観光。みんな、大喜び。楽しいことも災難も全てが懐かしい思い出である。

多くのことを体験し、数々の思い出を心に刻み帰路についた時、またも災難が…。車内の天井に付いている扇風機に隊旗が絡み、三ヶ所切れてしまったのです。やれやれと思っていたら一時間後、こんどはスカウトの一人が鼻血を出し、空けていた窓からの風の影響で座席に点々と飛び散らかしてしまったのです。後始末がたいへんでした。

「隊旗のことで迷惑をおかけしたばかりなのに…」車掌さんに深くお詫びをしたとき、この車掌さんの地元が宮城県中田駅の近く、しかも参加スカウトの隣に住んでいる方と分かり、びっくりしました。その後、お礼に伺ったことは、言うまでもありません。

災難続きのジャンボリーでしたが、人生思い出ナンバーワンになりました。

最後に仙台第1回、若生隊長さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。



第4回日本ジャンボリー  
動画はこちらから  
見ることが出来ます  
データ通信量に  
気をつけてご覧下さい

## ボーイスカウトの魅力

前・仙台第22回 RS隊（岩手県連盟 前・水沢第4回）

住吉正志（エムズファイナンシャルプランナー代表）

ボーイスカウトは、他の団体とは異なる魅力があります。

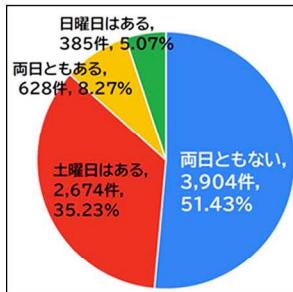
- 年齢層の幅が広い割には、他団体と比べその上下関係は厳しくない。
- 個人の興味に合わせて幅広い分野の技能を伸ばすことができる。
- 社会奉仕の大切さが学べる。
- 班、隊活動におけるプログラムの立案・実行において、個々の判断力・チームで協力して取り組むことの大切さが学べる。

私は、ボーイスカウト活動で生きる術を身につけるとともに、心から仲間と呼べる人を見つけることができました。



世界ジャンボリーの記章  
OB柿沼氏からの写真提供いただきました

## 「わくわく自然体験あそび」アンケートから見る今後の展開 組織拡充委員会委員長 和田剛和



土曜日・日曜日に  
習い事などありますか？

今年度、全国で行われている「わくわく自然体験あそび」について、これまで開催された分の参加者からの事前アンケート結果が日本連盟より届きました。その一部を報告します。

「お子さまに身につけて欲しいこと？」では「リーダーシップ」よりも「判断力、決断力」、「チャレンジ精神」「コミュニケーション力」への要望が高くなっていることがわかります。しっかりと保護者のニーズを捉えていく必要を感じます。

また、「そのために必要な経験は？」の回答を分析すると「仲間たちの一員となる喜びを味わう」が多く、まさにボーイスカウトでの班活動への期待が多いと読み取れます。

さらに興味をひいたのは「土日の習い事」ですが、「両日ともない」「土曜日はある」の回答で86%まさに今後の展開でのチャンスなのでは。

なお、もっと詳しいデータについては県連事務所までお問い合わせ下さい。

## ■編集後記

スカウトみやぎ54号は、東日本大震災時の記憶・コロナ禍における活動の工夫、上進・進級に挑戦するみなさんへの応援、スカウト活動の思い出を寄稿いただきました。

思い起こせば、スカウトとしての数年間、限られた時間の中での活動・挑戦は、悩みや苦しみなど数多くの壁があったが、その時が成長のチャンス！というメッセージをみなさんから受けとった気がします。

本当のボーイスカウトの楽しさ・おもしろさは、困難を超えた後、5年後・10年後に気づくことなのかもしれませんね！

広報委員会 副委員長 スカウトみやぎ担当 高橋修

■発行日	令和3年3月1日
■発行	日本ボーイスカウト宮城県連盟 〒985-0841 多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号 (宮城県多賀城分庁舎)
電話	022-355-6265
■発行人	日本ボーイスカウト宮城県連盟 理事長 菅野五郎
■編集人	日本ボーイスカウト宮城県連盟 広報委員会委員長 佐竹孝喜